秋高同窓会だより

題字は第六代塩田会長

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会
秋田市手形字中台一番地
TEL 018(832)9553
印刷所
秋田マイクロ写真印刷株式会社

平成10年度総会
―県外支部からも参加―

今年度総会が、去る7月26日、アキタニューグランドホテルに於いて開催された。今年は、近畿、東京、仙台、岩手など県外の支部からの出席も得て、約百三十名が出席し、昨年度の報告、今年度事業計画、予算案の審議の後、すべて原案通り承認された。議事終了後の記念講演では、小玉正己氏（S4卒）が、これまでのレスリング人生を熱く語った。

会は佐藤英明氏（S46卒）の司会により、校歌斉唱、物故会員への黙禱で始まった。ついで丸山会長が、議事進行への協力のお願いと、県外の支部からの出席を得て盛大に開会できたことを感謝する挨拶を述べた。

続いて池田学校長が挨拶に立ち、野球部などの部活動の状況、東海林太郎展の紹介、進学状況などについて述べたが、特に進学状況については、秋高生のチャレンジ精神を危ぶむ声もあるが、合格率も高く、いわゆる難関大学へも多数合格していて、生徒達は文武両道で活躍していることが紹介された。

その後の議事では丸山会長を議長に選出し、まず斎藤事務局長からの会務、事業報告、続いて各常置委員会からの報告があった。この中では特に、財政委員会から、**会費の納入状況が思わしくない**こと、名簿委員会からは**現会員数が二七三九七名**、そのうち**住所判明者数が二〇四八四名**であること、又、今年度発行する**名簿の予約部数が、五千部の予定に対しまだ三千数百部**であることなどが報告され関心を集めた。続いて昨年度収支決算報告、三浦禮司監事（S25卒）の監査報告がなされ、承認された。

次に、斎藤事務局から今年度事業計画及び予算案の説明があり、**(1)委員会の充実（当番年次、若年次の会の充実。会報の刷新と充実）(2)羽城館の整備（特に校史資料館の充実）**に力を入れてゆくこと、会費の納入減、繰越金の減により昨年度予算に比べ約一六〇万減の予算を組まざるを得なかったことが述べられ、質疑応答のあと、満場一致で承認された。

その後休憩をはさんで、小玉正己氏を講師に「今日この頃思うこと」と題する記念講演が行なわれ、出席者全員、示唆に富む、情熱的なお話しに耳を傾けた。（講演要旨は2ページに掲載）

後援会終了後の懇親会では県外支部からの参加者を交え、なつかしい話に花が咲いた。

同窓会入会式案内

日　　時　平成11年2月1日(月)
　　午前10時～
場　　所　秋田高校体育館
新入会員　卒業生406名
先輩激励　講師　松岡直昭氏
　　(S36卒・㈱講談社取締役編集局長)

母校訪問を兼ね、新会員を祝う会に会員多数の参加をお待ちしております。

平成９年度一般会計決算
平成10年度予算（案）

《収入の部》　（単位；円）

科目	9年度決算額	10年度予算（案） 10年度予算額	摘要
1.入会金	3,088,800	2,923,200	新入会員406×7,200円
2.会費	10,827,000	11,000,000	延5,500人×2,000円
3.協賛広告収入	650,000	720,000	72コマ
4.基金運用収入	55,288	72,000	基金預金利息
5.寄付金	70,500	10,000	
6.雑収入	255,309	25,000	預金利息、記念誌売上金など
7.繰入金			基金より
8.繰越金	1,912,465	633,931	前年度より繰越
合計	16,859,362	15,384,131	

《収入の部》　（単位；円）

科目	9年度決算額	10年度予算（案） 10年度予算額	摘要
1.事務費	3,713,423	4,166,000	
給料・手当	2,194,250	2,466,000	嘱託・事務補助 アルバイト賃金
消耗品	110,489	200,000	文具・用紙代・ダスキン交換 ・コピー機使用料など
印刷費	384,825	385,000	封筒・払込取扱票・私製葉書など
通信費	269,984	270,000	切手・官製葉書・電話料・FAXなど
手数料及び広告料	290,675	320,000	会費他払込手数料・広告料
委託料	463,200	525,000	会費納入データ処理など
2.会議費	2,516,400	2,040,000	
総会費	536,245	400,000	当番年次打合会・講演謝礼 懇親会補助・総会資料など
役員会費	352,719	300,000	理事会2回・正副会長委員長会議
委員会費	320,679	320,000	常置委員会など12回
支部関係費	1,306,757	1,020,000	支部総会出席旅費・寸志など
3.事業費	9,783,144	8,664,000	
だより発行費	7,309,633	6,674,000	年3回延20頁発行費・印刷代 送料・封筒代金・宛名ラベル
母校協力費	800,000	800,000	運動部助成費など
新入会員歓迎費	679,765	680,000	記念品代・案内状・菜など
年次強化費	87,315	150,000	同期会通信費補助・懇談会費
知道会関係費		60,000	知道会との交流
事務局整備費	339,852	100,000	事務局備品・整備費など
資料館整備運営費	566,579	200,000	ケース・額・写真・表装
4.基金		10,000	
同窓会基金		10,000	
5.雑費	212,464	200,000	
慶弔費	89,820	100,000	弔電・見舞金・祝金・餞別など
雑費	122,644	100,000	ハイヤー代など
6.予備費		304,131	
予備費		304,131	
合計	16,225,431	15,384,131	

提言

世代を超えた交流の場に

東京支部長　高橋恒雄（S27卒）

平成十年二月、秋田高校同窓会東京支部、支部長の朝倉俊夫先輩（昭二六卒）が逝去されたことにより、同年五月開催の東京支部総会において、私に支部長の順番が廻って参りました。

ただ、私の前任の金谷・朝倉両支部長は、支部に関する全ての事をお一人で処理されておられまして、到底同様の処理は私にはできませんのでその旨を支部幹事諸氏に申入れました処、事務局を新設し、支部の実務を事務局で行うことを即決され、爾後、その事務局が中心となって企画し、実行してくれております。しかし、何れも不慣れな者が、本業の仕事終了後の短時間をやりくりしての打ち合わせであり、「これで良い」として実行したのに、後になって反省させられる事項が色々出てくるというのが実情です。

それでも事務局諸氏の努力によって、例年にない盛り上がりを見せた支部総会を何とか規則通り五月中に開催でき、私の第一回目の責任は果たし得たと安堵致しました。しかし、総会に関しては幾人かの方々から私に対し、いろいろと問題点を指摘していただき、反省もさせられました。それだけに、金谷・朝倉両先輩は事務局もなしで一人でよくも全てに対応されたものと、改めて両先輩のご苦労に感謝せざるを得ませんでした。

総会は、校歌を久しぶりに皆で斉唱し散会となりましたが、出席された会員が青春時代の思いを改めて感ずることによって、明日へのファイトを抱いて下さることが出来たとすればそれこそが総会開催に努力した事務局、幹事の喜びでもあります。総会終了後も事務局諸氏は何回も打ち合わせを重ねておりますが、よく言われる同窓会の活性化の為にも、**東京支部を会員の単なる親睦を図るだけの集いとしてではなく、世代を超えた会員の交誼を深め、先輩が後輩の活動を支援する場とすることはできないか、セミナー、後援会、名刺交換会、ゴルフコンペ等の開催はどうなのか**等色々な意見が出され、手探りながらもまず**会員に対するアンケート**からと、現在お願いしているところであります。すでに貴重な御意見の数々が送られてきており、有り難い限りです。東京支部事務局の諸氏、幹事諸氏のエルネギーを基に、秋田高校同窓会東京支部をますます発展させたいと思います。会員の皆様の暖かい御協力をお願いする次第です。

祝叙勲

この秋の叙勲で本同窓会から、新堀孝義、梶原忠郎の両氏が、勲四等瑞宝章を受章されました。心からお祝いするとともに、両氏の喜びの声を載せご紹介します。

新堀孝義 氏
（S18卒）

平成十年秋の叙勲の内示を受けたときは、全く突然で思いもよらなかっただけに、応対の声もかすれがちでした。

在職中、特に際立った功績を残していたとは思っていなかったし、単に長く勤めただけに過ぎなかったのです。

皆さんのご指導・ご支援を今後ともお願いいたします。

〔略歴〕
秋中（昭18年）卒、秋田鉱専卒、玉川大学文学部通教卒、昭和50年大曲工高校長、昭和55年県立図書館館長（北日本図書館連盟理事長）、昭和58年秋田工高校長（高野連会長）。

梶原忠郎 氏
（S19卒）

秋の叙勲拝受の栄に浴し、十一月十日皇居にて天王陛下に拝謁を賜り、感激の極みでありました。これも偏に同窓の皆様のご指導ご支援の賜物と感謝申しあげます。

〔略歴〕
秋中（S19卒）。東北大学・東京大大学院卒。秋高教諭を経て教頭。県文化課長の後、秋田南高校長（S58～62）で退職。

天上天下

▼「あなたの市場価値は、年収〇百万円と決まりました」。ある日、会社から社員の自宅にこんな電話が入る。人事コンサルティング会社に仕事別給与の世間相場をはじきだしてもらい、これに管理職が貢献度を加味し、経営会議で社員一人一人の年俸を決める。「パソコンが使いこなせるかどうか」、「英語力はどうか」、「リーダーシップがあるかどうか」など時代に即した能力によって、賃金に格差がつく。▼日本型雇用システムの破壊が深く静かに進みつつある。官僚主導の経済運営が限界に達した結果、行財政改革にまずメスが入れられ、雇用、金融、流通、経営と「日本型」の経済社会システムが波状的に変革を迫られているのだ。市場経済がグローバル化の速度を速めていることも、これに拍車をかけている。▼社会経済生産性本部がことしの初め、終身雇用について上場企業を調査したところ、五割弱が「できるだけ維持したい」と答えたが、「特にこだわらない」と回答した企業もおよそ四割にのぼった。厳しい経営環境のなかで企業が人材をこれまで以上に厳しく選別し始めたことを物語っている。労働基準法を改正して転職や解雇、出向などが頻繁に行える裁量労働制の導入を図ろうという動きまで出てきた。こうした雇用の流動化時代を迎えて、「いざという時」に自分を少しでも高く売りこめる武器を身につけておこうという考え方が、若い人々を中心に広がっている。転職を強く意識してのことだ。雇用条件から学歴、性別が消える傾向がますます強まると、高校生の進路の選択基準は、これから劇的な変化を遂げていくのではないだろうか。

●記念講演

「今日この頃思うこと」

小玉正己（昭和4年卒）

何を話そうか迷ったが、私がレスリングを始めてからこれまでの間に経験した様々なことを、思いつくままに話してみたい。

秋田中学時代は柔道部に所属したが、その当時全県大会で連続優勝し、一度仙台で行われた東北大会に出場したことがあった。その時、敗れた悔しさに秋田まで歩いて帰った思い出がある。その後先輩の勧めで早稲田大学に入学し、三船久蔵先生の指導のもとに柔道を続けているとき、八田一郎氏からの誘いでレスリングに転向した。その頃は満足な練習場もなく、練習場を捜すのに難儀したものである。

最初の海外遠征は、昭和八年のハワイ遠征であった。この時はハワイに着く前の日に、皇太子（現在の天皇）が生まれたとのうれしいニュースが入ったことを覚えている。

その後、昭和十年には船で六十二日もかけて、ロンドン経由でドイツへ行き、小泉先生という方にお世話になったこともあった。また、昭和29年にはソビエトから招待されて各地を転戦した。この時は亡命していた岡田嘉子さんに遭ったり、帰りにはチェコの小川公使に呼ばれてチェコに立ち寄ったところ、今まで日本人が試合に負けて悔しい思いをしてきたので、武士道を誇る日本男児の強さを見せてやって欲しいと懇願され、柔道で五人掛けをやって気勢を上げたこともあった。

昔は、スポーツの第一の目的は体を鍛えること、互いに尊敬しあいながら、正々堂々戦うことであったが、日本柔道がヘーシンクに敗れたあたりから、何がなんでも勝たなければならないという考えに変わってきたように思う。全力を出せば試合には負けてもよい、自分の体力、気力を養うためにスポーツをするべきである。

最近、証拠を残さなければどんな悪いことをしてもいいという知能犯が増えている。悪い事をした覚えはないと言っていた大臣が次の日逮捕されるというようなことがたくさん起きている。また、いかに金儲けするかに大きな関心が払われている風潮がある。その結果、尊敬できる人がいなくなり、企業でも家庭でもお互いに尊重しあい礼を尽くすということがなくなってきている。あまりにも便利になりすぎた世の中にあって、我々は危機に瀕していると思う。

スポーツをしてきてよかったと思うことが最近もあった。昔ハワイで柔道の試合をした日系の人から、東京に来ているので是非会いたいとの連絡があり、久しぶりに旧交を温め、その後、その試合についてのその当時の新聞記事を送ってもらった。生きていれば思いがけないうれしいこともある。これからも生かしてもらうという気持ちで生きていきたいと思っている。

慶祝

文部省地域文化功労者
芸術文化振興功労
大守　崇男（S9）

秋田県文化功労者
保健衛生　石田　秀一（S13）
産業　小玉順一郎（S20）

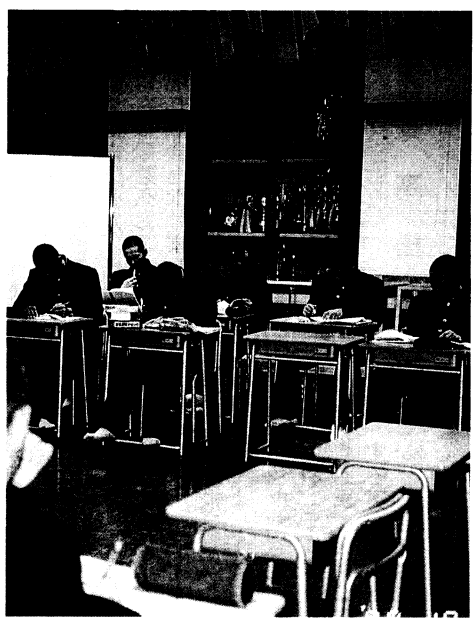
秋田市文化章
体育　藤原　義三（S11）
社会文化　小玉得太郎（S18）

日本民謡協会功労章
進藤　義男（S31定）

学習カウンセリングについて

運動部支援担当　長崎　淳子

本校で「運動部支援担当」という係ができてから三年になります。文武両道の校風を維持するために、運動部員の公欠等による学習の不足を補い、また様々な学習に関する相談にものり、自主的に勉強計画をたて、勉強していく力を養うために作られたものです。通称「学習カウンセリング」または「学習会」と称しています。担当の先生は、国・数・英、各三名、理・社各一名で、全部で十一名です。「学習カウンセリング」は、支援担当が計画した日（大体週一回　テスト直前はさける）、あるいは各運動部から要請された日に行われます。それぞれ放課後、約一時間、同窓会館及び視聴覚室で開かれています。その時間の進め方は授業形式ではなく、生徒の質問に答えるという形で進められています。今年度参加した部は、バスケット部、バドミントン部、柔道部、剣道部、硬式野球部で、前期実施回数は十回、参加延べ人数は三百七十人でした。後期は同窓会館一階の部屋に、生徒用机、椅子を三十二個新しく用意し、二階も合わせると同窓会館だけで全部で六十五名一緒に勉強出来るようになりました。



参加部員の勉強に対する姿勢は大変熱心で、後期は特に質問も多く、終わるのが夕方五時をまわることもあり、有意義な時間となっています。

「学習会」に参加する時は、部の練習がないということになりますが、部によってはその後練習あるいは自主練習となっているようです。参加生徒の感想の中には、「試合のため、授業に出られずわからなかったところが、早くわかるようになれる」・「ずっと続けてほしい」等、好意的な意見が多く、喜んでおりますが、地味な活動ではありますが、これからも着実に続けて行きたいと思っております。

99年度入試を展望する

進路指導主事　榎　豊

99年度入試に向けて、いよいよラストスパートの時期にはいった。昨年以上に先行き不透明感の拭いきれない社会情勢は、進む少子化傾向とともに、入試にも影響を与えることになりそうである。

〈センター試験〉少子化傾向の進む中初めて60万人を割った昨年度に続き、今年も58万人台の出願であるが、現役志願率は、昨年を上回る見込みである。本校では在籍405名のうち374名が出願、五教科六科目受験予定者の割合は87％強となっている。ここ数年アラカルト方式の大学志向が強くなっていたのだが、今年は歯止めがかかった形となった（昨年比9.6ポイント増）。選択の幅を狭めず挑戦していこうとする前向きな姿勢の現れと考えられる。

尚、今春に続き、来年度も本校が受験会場となる。平常心で受験に臨める点で、心強いと思われる。

〈国公立大学〉昨年までのC日程は「中期日程」と変更、前・中・後期日程に整備された形となった。今回は新課程入試三年目で科目の旧課程措置はなくなり、特に数学の難化傾向が予想される。また、東北大をはじめとする様々な大学で入試制度を検討しているが、秋田大学でもセンター試験なしの推薦を教育文化学部で導入した。県立大学もスタートするなど、県内大学での受験生の動きも注目される。

本校生は国公立大志望者332名で、主な内訳は東北大63名、北海道大26名、筑波大9名、東京大10名、京都大5名などである。尚、学部毎にみると、文系では、文学部、理系では、工学部志望者がそれぞれ多くなっている。

〈私立大学〉ここ数年易化傾向にあるというものの、本校生の志望が集中する難関大への人気は依然衰えず、決して楽観はできない。本校の私大第一志望者は62名であり、早稲田大、慶応義塾大、中央大、などが主な志望先である。

〈推薦入試〉国公立大でも導入が進んでいるが、理系学部を中心に東北大、北大、新潟大などで志望者がいる。また、私大の指定校推薦は昨年並みの志望者である。自己推薦入試では、明確な志望理由と積極的な自己アピール、他を圧倒する意欲によって数名が合格を手にしている。

〈今後の展望〉現三年生は、本番に向けて猛ダッシュの勢いである。

これまで数字（校外模試での結果）に結びつかず苦しむ部分もあったが、秋高生の持ち味ともいえる切り換えの早さと集中力で意欲的に取り組んでいるところである。本番で力を出しきって志望達成できるものと期待している。

随想

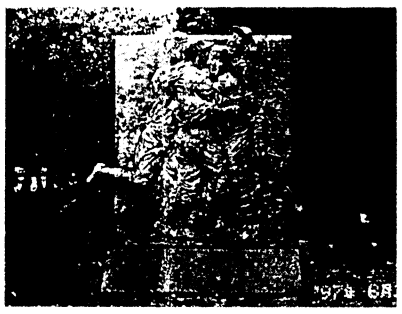
白球の森の秋田杉

石井直樹（昭和54年卒）

高校野球のメッカ・甲子園球場のほど近い所に「白球の森」がある。昭和五十八年の第六十五回大会を記念して、全国の県の木を持ち寄って植樹した森だ。

この年の県大会優勝は、秋田高校。夏の甲子園出場十五回目であった。白球の森には秋田杉が植えられ、その下の銀色のフレームに「秋田代表秋田高校」と記されている。

私は、甲子園の待ち合わせ広場の掲示などで「白球の森」について知っていたので、去年、そして今年と野球観戦の折りに訪ねた。阪神鳴尾浜球場バス停から歩いて五分ほどだ。



白球の森の意義や各県の木の一覧を示した日本地図、日本高野連会長、牧野直隆さんの題字による「青春の栄冠」のモニュメントから十メートルぐらい西側の所に「秋田杉」がある。

しかし、気がかりなのは杉の木が枯れかかっていることだ。阪神地方の夏は暑く、さもありなんと思った折りも折り、別の木にひしゃくで水をかけている女性を見かけた。「こうやって時々水をあげないと枯れてしまうから……。」とのこと。

八十回を数える歴史の中で記念植樹を行なったのは、この大会だけではないかと思われる。それだけに、この記念の秋田杉を大樹に育てて行きたいものだ。

私も、白球の森の入り口に常備してあるバケツとひしゃくを借りて水をかけてきたが、秋田から遠いだけにどうにかならないものかと気を揉んでいるこの頃だ。

OBや関係者のおもいやり心配りで「白球の森の秋田杉」が西宮市の天上はるかに育ってもらいたいものだ。

●寄贈図書の紹介

1. 池田謙三著（明治33年卒）地宝と人生　河出書房
2. 技道　北陸館
3. Man Engineering（若人の種）宝文館
1. 松井邦雄著（昭和27年卒）夢遊病者の円舞曲　作品社
2. 悪夢のオルゴール　河出書房
3. 豪華客船物語　六興出版
4. ビギンザビギンの幕があがる　筑摩書房

丹内信夫氏（昭和18年卒）より

北林照助著（昭和20年卒）激動の昭和を生きて　秋田マイクロ写真印刷㈱

加藤義孝著（昭和16年卒）緑と風と海光と　男鹿観光のあゆみ（共同印刷）

柴山芳隆（昭和36卒）二つの校歌　文芸書房

統天上はるかに（秋高33会）

秋田高校ラグビー部 東京OB会

秋田高校ラグビー部東京OB会は母校が初めて西奥羽代表として花園ラグビー場に出場権を得た昭和41年暮れ結成され、途中数年空白がありましたが、平成3年再結成し、以来母校ラグビー部が花園で活躍することを念願し、活動を続けております。

今年度の総会は、7月11日(土)午後1時から銀座「三笠会館」で秋田から上京した国安OB会副会長、三戸幹事長を交えて開催。昭和25年卒、夏井末春会長の挨拶で始まり、三戸俊信幹事長から母校ラグビー部の県大会・東北大会の戦績とチームの現状、夏合宿の日程、今後の見通し等が報告された。

会は懇親会に移り昭和42年卒、藤田康和の乾杯の音頭で開宴。昭和23年卒、大鹿和巳から戦時中「闘球部」と呼称していた頃の話、大企業の重役・中堅自営者・建築家・学生など多種多様の先輩後輩が高校（中学）当時の先生のこと、密かに想いを寄せた女子高校生のこと、合宿試合の辛かったことなど、時計の針が一瞬にして高校時代に逆戻りし、又蒸し返りあり、新事実発見あり、時の経つのも忘れた。

最後に校歌・部歌の斉唱の後、昭和27年卒、佐藤雄三による関東1本締めで終宴。それでも話は尽きず先輩後輩共々スクラム組んで、組まされて夕闇迫る銀座の街へと消えた。

（昭和44年卒　尾形　均　記）

「秋高サッカー部創立50周年」祝賀パーティー

つどい

去る平成10年10月31日(土)、メトロポリタンホテル秋田に於いて、秋高サッカー部創立50周年記念誌の発刊と、同OB会会長、石澤良一氏（S27年卒）日本サッカー協会・功労賞受賞を祝って、盛大な祝賀パーティーが開催されました。

当日は、池田学校長初め、元部長、監督、コーチ、OB会員等57名の出席を得て、厳粛な中にも、和やかな雰囲気でオープンいたしました。学校長挨拶、監督、顧問による祝辞、石澤氏への花束贈呈と、司会は秋田放送（ABS）アナウンサー菅原さん（S51年卒）の名調子で進められ、又50周年記念事業として、母校サッカー部に対し、ユニホーム一式が、OB会・進藤事務局長（S41年卒）から工藤部長へ贈呈されました。祝電披露では、アメリカロスアンゼルス・大森さん（H5年卒）からメッセージが届けられ会場が大いに沸きました。乾杯の発声は、工藤浩司さん（S25年卒）でいよいよ開宴となりました。

記念誌を開いては、爆発する談笑、「お互いに若かった！」という共有するノスタルジー、正に一瞬の内に、それぞれが数十年、十数年の昔へとタイムスリップし、秋高イレブンの集合体と化し、練習の厳しさ、試合で負けた悔しさ、勝利の快感、遠征の想いで、時間の経つのも忘れ本当に「あっ！と言う」間の一時でありました。

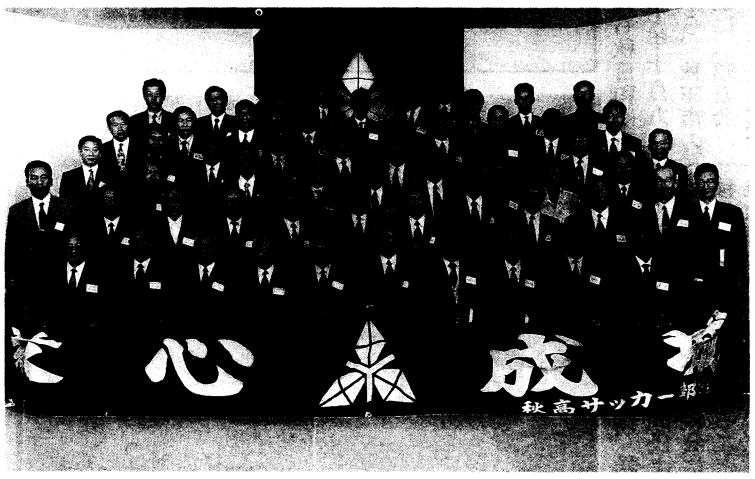
恒例の菅原さん（S29年卒）による三三、七拍子の「中じめ」に始まり、会員が肩を組みあい「天上はるかに～」の校歌大合唱へと宴は最高潮に達しました。

終にこの会の為、東京から駆け付けて頂いた、児玉さん（S27年卒）の音頭で、万歳三唱を声高らかに唱和し、ようやくその幕が降りたのでした。

記念誌作成にあたり、母校関係者、OB会の多数の皆様から、資料、写真、記録等を提供していただきましたことを心からお礼申しあげます。来年のOB会の参加者がもっと多くなることをお願いいたしまして筆を置きます。

尚、記念誌につきましては、〒〇一〇―〇八〇二　秋田市外旭川字後田七六―四㈱トーヨー内　秋高サッカー部OB会事務局　鎌田　均（S46年卒）　電話018―86―5673にお問い合わせ下さい。

（文責　国安志郎　S32年卒）



学校経過一覧

（昭和38年までの卒業生数には、定時制・通信制を含む）
昭和43年以降（　）は理数科　内数

年度	学級数	生徒数	職員数	卒業生数	入学志願者数	入学者数	女子入学者数	備考
昭和24年	22	1,165	43	120	—	61		
〃 25年	24	1,185	56	311	558	420		
〃 26年	26	1,331	56	397	816	513	28	男女共学開始
〃 27年	28	1,461	58	548	862	513	30	
〃 28年	30	1,561	65	545	764	514	29	秋田高校と改称
〃 29年	30	1,533	68	638	497	497	21	
〃 30年	30	1,535	71	623	721	516	24	
〃 31年	30	1,535	71	634	720	515	26	
〃 32年	30	1,563	75	605	670	516	30	
〃 33年	30	1,553	77	618	635	511	30	
〃 34年	30	1,531	81	604	669	512	30	
〃 35年	30	1,536	80	614	629	515	37	
〃 36年	30	1,542	81	596	624	511	40	新校舎落成（12月20日）
〃 37年	30	1,599	81	589	628	544	38	
〃 38年	30	1,575	81	566	676	541	41	
〃 39年	30	1,606	78	499	631	538	29	定時制は秋田東高等学校として独立
〃 40年	30	1,617	77	531	645	537	39	
〃 41年	30	1,637	80	527	641	543	46	
〃 42年	30	1,609	84	534	669	520	73	
〃 43年	30	1,570	83	532	675(50)	504(41)	62 (0)	理数科設置
〃 44年	30	1,519	87	533	546(38)	469(39)	67 (0)	女子制服制定
〃 45年	30	1,462	87	522	621(43)	488(40)	61 (0)	
〃 46年	30	1,416	90	498	548(45)	458(39)	78 (1)	着装の自由化決定
〃 47年	30	1,391	89	481	517(30)	467(40)	75 (1)	
〃 48年	30	1,392	90	461	502(34)	464(41)	77 (2)	創立百周年（9月1日）
〃 49年	30	1,407	91	457	562(32)	478(42)	92 (3)	
〃 50年	30	1,426	91	460	571(25)	481(42)	84 (0)	
〃 51年	30	1,430	90	455	579(31)	468(39)	80 (2)	
〃 52年	30	1,409	93	479	584(22)	468(40)	89 (2)	
〃 53年	30	1,392	91	470	561(17)	461(39)	83 (3)	
〃 54年	30	1,382	91	481	504(20)	457(40)	90 (2)	
〃 55年	30	1,376	91	469	517(16)	465(39)	88 (2)	
〃 56年	30	1,390	92	454	510(29)	466(41)	88 (3)	
〃 57年	30	1,399	92	452	506(34)	465(43)	109 (6)	
〃 58年	30	1,402	91	465	548(31)	475(44)	105 (5)	
〃 59年	30	1,409	93	462	557(35)	474(43)	102 (2)	
〃 60年	30	1,422	91	455	544(42)	463(43)	110 (4)	
〃 61年	30	1,407	89	476	575(40)	463(42)	107 (6)	新校舎落成（11月17日）
〃 62年	30	1,389	89	478	574(39)	464(42)	136 (5)	
〃 63年	30	1,387	92	460	524(38)	463(43)	126 (9)	2期制、65分授業
平成元年	30	1,387	91	459	537(45)	465(43)	151 (6)	
〃 2年	30	1,393	91	453	594(50)	467(43)	170 (7)	
〃 3年	30	1,395	91	455	571(46)	463(42)	175 (9)	
〃 4年	30	1,392	91	464	599(51)	465(41)	154 (8)	
〃 5年	30	1,390	90	463	611(51)	464(41)	161 (7)	校史資料館・第2セミナー新築落成
〃 6年	30	1,385	92	458	587(44)	454(40)	188(10)	
〃 7年	30	1,353	103	461	525(38)	435(40)	152 (8)	
〃 8年	30	1,303	103	462	509(45)	417(40)	147(11)	
〃 9年	30	1,266	100	445	523(48)	420(41)	153 (5)	
〃 10年	30	1,232	98	428	499	402	159	普通科・理数科くくり募集

同窓会の皆様へ

最近本校の職員名、個人名を利用して卒業生の連絡先の照会が行われているようですが、秋田高校ならびに同窓会では現在電話や郵便による名簿掲載内容の照会は一切行っておりません。十分にご注意くださるようにお願い申し上げます。

平成十一年度 秋高36会新年会

日時　平成十一年一月二十三日(土)　五時ヨリ
場所　料亭　志田屋
多数参加下さい。

朝日産業株式会社
取締役社長
高畑重幸
（昭和35年卒）
秋田市茨島3丁目1－6
TEL 018－864－6411
FAX 018－824－4864

山王有明歯科医院
院長
有明　一
（昭和35年卒）
秋田市山王2丁目1－53
TEL 018－862－5011
FAX 018－865－0700

白根胃腸クリニック
医師
白根東久二
（昭和35年卒）
秋田市大町1丁目6－12
TEL 018－863－2711

絆の太さを再確認
昭和20年卒（58期）6年ぶりに秋田で

九月二十五日午後四時からホテル・メトロポリタン秋田で昭和20年卒の同期会が開かれた。大阪・愛知・神奈川・東京・千葉・埼玉・宇都宮・札幌など遠路かけつけた級友を含め、参加人員は夫人同伴もいれて五十人。卒業五十周年記念の同期会を東京で開催して以来三年ぶり、地元秋田で開催するのは実に六年ぶりだっただけに、会は大いに盛り上がった。卒業以来初めて参加……、秋田には四十年もの間訪れたことがない……などという友もいて、アルコールが回り出すと、会場のあちこちには、昔話の花が咲いた。六時三十分、校歌・副歌・校友会歌などの合唱で会を締めくくったが、時間が不足だったと後から苦情が出たくらい。

なお、参加人員こそ五十人だったものの、特攻戦死した友を筆頭に七十人もが物故しているにも拘らず、級友からの便りは百三十九通もに昇り同期の絆の太さを感じさせた。

注　58期と敢えて断ったのは、昭和20年卒が二ケ学年あるため。大戦のさなか徴兵年齢が十九歳に引き下げられ、伴ない学制も改められて、私達五年生と四年生が同時に卒業している。卒業場所は、共に動員先の軍需工場。（國安　記）

若菜会
暖かく和やかに
五十嵐さんの遺作も

「第十五回若菜会」は、九月十二日午後五時から、秋田市のキャッスルホテルで開催された。恩師四名（菅原繁雄先生、最上勉先生、山谷浩二先生、神馬暹先生）をお迎えし、同窓生二十四名の参加者が集まった。記念写真の撮影を終えていよいよ開会。

恩師からそれぞれ思い出に残る話や最近の近況報告を兼ねたスピーチをいただき、なごやかな雰囲気に包まれた会場のあちらこちらから笑いもこぼれた。

昭和29年卒業の女子1期生の方々から順番に、簡単なテーブルスピーチがあり、県外から参加された方もおり、先輩のスピーチに対して後輩からざっくばらんな質問が出されたり、終始打ちとけたなかにも、暖かなコミュニケーションがとれた会合となった。

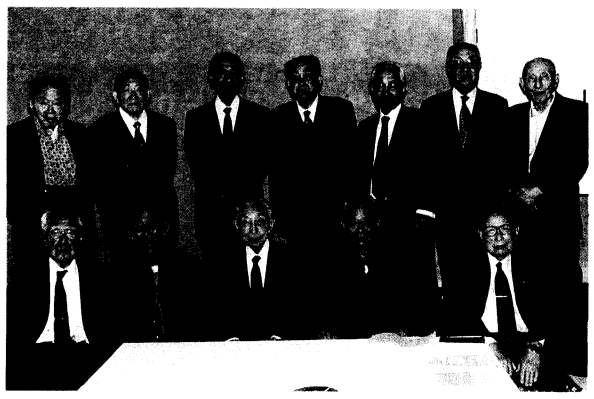
また、会場には、幹事学年（S38年卒）で、今は亡き五十嵐和子さんの七宝焼の展示コーナーも設けられ、仏像をイメージした作品、シルクロードの砂漠に、琵琶を片手に佇む古代の女性を描いた作品、夕焼の海などの作品、つぼや鉢など、七宝のすばらしい遺作にも話の輪が広がった。

楽しかった集いも、いよいよおひらきとなり二年後に再びあえることと、それぞれの健康を期して閉会となった。（S38年卒幹事　佐藤記）

思い出話し尽きず
秋日和の中昭五会開催

心配した天候も秋日和に恵まれて、平成十年十月九日（金）午後二時から、秋田市の千秋会館を会場に「昭五会」を開催。出席者十二名（残念ながら昨年より四名減）。記念撮影ののち開会。本間善次郎氏から、昨年末からの物故者四名（三森福治氏　井上正氏　清澤吉助氏　佐藤育秀氏）について報告あり。黙禱を捧げる。会務報告、収支決算についての監査報告等型通りに終り、来年度からは、総会を開催できない旨本間氏より提案され了承し、懇親会に移る。思い出話は尽きることがないようであったが、定刻となり、「秋高校歌」を斉唱し微醺のうちに散会。出席者は次の通り。（相澤　記）

写真前列左より（敬称略）牛込善正　柏谷幸治郎　柴田与太郎　安倍　興　桜田正吉　後列左より　鈴木政夫　大島秀太郎　高橋孫太郎　高橋信光　相澤謙一　本間善次郎　石川　正　以上



人生80年代に挑む
十一紫会　激動の昭和振り返る

毎年度欠かすことなく同期の会を続けていることを喜びとして、本年度も十月十五日秋田駅近くの久保田会館で催すことができた。

激動の昭和をくぐり抜けてきた人生を振り返り、傘寿の節目から更に米寿を目標にして人生八十年時代に挑まんの申し合せをして、高らかに校歌を唱い、次回の再会を約して散会した。当日の出席者次の通り。（伊藤　記）

国栖隼男（琴丘町）、信田　昭（昭和町）、須貝作郎（矢島町）、熊谷義一（六郷町）、佐藤民治、佐藤岩雄、渡辺純一郎、水谷勝一、市川　稔、小野静男、藤原義三、佐々木六郎、伊藤馨（以上秋田市）

酒量落ちても元気
27期会　校歌に蛮声挙げる

27年卒同期会総会は、六月十二日の夕、秋田市の平安閣で恩師、会員計四十五人が出席して開かれた。

恩師の中山健先生、深井博之先生、山谷浩二先生もお元気な顔を見せ、成田實君の進行で開会。辻悌五郎代表幹事のあいさつ、藤原豪男事務局長の報告の後、懇親会に入った。

県外会員は計四人。大阪在住の倉西博之君は、乾杯の音頭で「入院で昨年は欠席したがもう大丈夫」と、高々とグラスを上げると、川崎在住の岩井健一君は、初孫誕生の慶びを俳句に託す好々爺ぶり。昨年、東北ペプシコーラ社長を退任した金澤敏光君、同期会の会報で「ザ・羽越線」企画を連載、好評を博した加藤明男君と首都圏に住む両君も早々にテーブルを回り、歓談、空白を感じさせないほど。

旧制秋田中学最後の入学生の我々も既に六十代の半ば。酒量は落ち、会話の中身も健康問題から孫自慢などに絞られがちだが元気さだけは昔のまま。最後の「天上遙か」で蛮声を張り上げ、来年の再開を誓った。（信太聡一・記）

IYATAKA
株式会社イヤタカ
代表取締役会長
北嶋　昭
（昭和35年卒）
秋田市中通6丁目1－13
TEL 018－835－1188
FAX 018－831－1283

三浦歯科医院
歯科医師
三浦捷也
（昭和35年卒）
秋田市新屋元町22－34
TEL 018－828－2109
FAX 018－828－2109

Takayanagi
株式会社タカヤナギ
代表取締役社長
高柳恭侑
（昭和35年卒）
秋田県大曲市川の目町東33
TEL 0187－63－5467
FAX 0187－63－7970

ホテル大和
代表取締役
佐渡谷栄悦
（昭和35年卒）
秋田市土崎港中央1丁目6-33
TEL 018－845－0151
FAX 018－846－8888

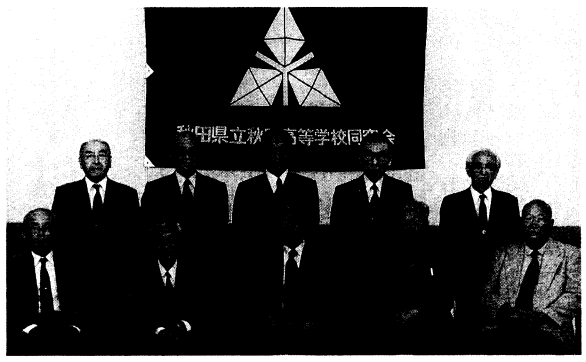
ITOKU
株式会社伊徳
伊藤碩彦
（昭和35年卒）
秋田県大館市清水4丁目4-15
TEL 0186－49－2255
FAX 0186－49－7302

株式会社アキタニューグランドホテル
代表取締役社長
伊藤民雄
（昭和35年卒）
秋田市中通5丁目2－1
TEL 018－834－5211

卒業60周年に感慨

昭和13年卒　記念誌の発行も計画

秋晴れの好天に恵まれ、昭和13年卒の同期会が、ホテルメトロポリタン秋田で、十月十三日二時半から開かれた。開会前から既にロビーで待機している出席者に、「秋高の概要」や「同窓会の栞」が配布され、全員揃ったところで校章旗をバックに記念撮影をすませる。



大槻幹事が司会進行し、まず物故者全員百十七名に黙禱を捧げ、菅原代表幹事から「ことしは卒業六十周年の記念すべき年であり、感慨もひとしおである。若い頃の古き良き学舎の思い出に浸り、学友を偲び、心ゆくまで歓談していただきたい」旨の挨拶があり、大槻幹事から会務・会計報告をして、協議に移り、次のことをきめた。

㈠毎年恒例の同期会は、年々出席者も減少してきており、体力的にも限界と思われることから、区切りのよい今年をもって最終とする。

㈡卒業六十周年記念誌を発行するので、奮って投稿を請う。原稿の締切は十一月末とする。

次いで東京紫紺会から出席の西田壮吉君から挨拶があり、同君の音頭で乾杯し、祝宴にはいる。各自二、三分で味のあるテーブルスピーチをし、その都度スナップを撮る。平沢哲夫君（東京）からの祝電も披露され、盃を重ねて大いに会も盛り上がり、日も西に傾く頃、赤間君のリードで校歌と校友会歌を斉唱し、進藤君の発声で万歳を三唱、名残りを惜しみながら五時すぎ散会した。

（菅原　記）

［出席者］

赤間正一、伊藤繁雄、宇梶正、江見喜代彦、大槻家静、金澤　彪、進藤一雄、菅原繁雄、西田壮吉、畑澤　恵

古希の節目を祝う

昭和21・22年卒会　格別な思い入れも

私ども昭和21・22年卒は、数えで70歳、古きの節目を迎えた。古来稀なりの年嵩さで目出たいこととしたが、人生八〇年の当今では、少々色褪せ、どうにも治らない。それで、古きのきは希望の希にして一層の励みにするよう、八月十九日(水)、さとみ温泉泊まり込みで同期古希の会を開いた。

私どもは昭和17年入学の二五〇余名であるが、卒業は戦時特例による四年制（21年卒）と戦後復活した五年生（22年卒）の二期に跨っており、戦中・戦後の混乱、欠乏のなかで過ごした学校には思い入れが格別にあって、同期の連帯感が強い。

出席者二六名、会は、佐藤（直）君の洒脱な司会で進行した。始めに、亡くなった同期六八名に黙禱を捧げた。続いて高橋（昌）君の代表挨拶、佐藤（鉄）君の現況報告があり、汐見君の乾杯で歓談幕明けにした。

〝天上はるかに〟の大合唱のなか、飲む程、酔う程、遙か遠くになった紅顔の日々が鮮やかに甦り、体中に元気が満ち満ちてくる楽しい一夜になった。

（堀井　記）

［出席者］

石田巌、加沢敏郁、金子忠蔵、鎌田與志美、川口祥治、小島鎮夫、小松元也、佐藤暹、佐藤鉄男、佐藤恒悦、佐藤直一郎、佐藤良七、汐見一光、高桑章一郎、高橋昌一、高橋響二、武田精一、吹谷茂、藤原良治、保坂弘、堀井　孝、舛谷寿男、八柳正和、柳田英治、渡辺純夫、渡辺隆

合唱などで盛大に

36人参加　札幌支部の総会開く

第15回札幌支部総会は10月3日夕、フジヤサンタスホテルで開かれ、「椰子の実」の全員合唱から社交ダンスの飛び入りまであって盛り上がった。

まず佐々木郁夫支部長（S20年卒）あいさつのあと、池田校長先生から母校の現況報告。続いて本部名簿委員長・工藤雄一さんのピアノ伴奏で、東海林太郎誕生百年を記念し「椰子の実」を全員で合唱した。

秋元敏見幹事長（33）の司会のもと、河田啓一郎さん（20）の乾杯で開宴。「札幌あげまき会」から賛助出席の戸井春子さん、会員の小泉嶺子さん（36）、松浦澄子さん（48）の女性3人を真ん中に、グラスを傾けながら若い頃の思い出を語り合った。

調子に乗り、工藤さんのクラリネット演奏に合わせダンスを披露する者も出て、ムードは最高潮。高橋光保さん（45）の指揮で校歌を斉唱、最年少・小玉匡樹さん（H4）の乾杯で最後を締めくくった。

このあと二次会に24人が出席、深夜の三次会まで名残は尽きなかった。他の出席次のとおり。

中川　重刀19　鎌田武二郎20
酒井　健20　武田　実20
松渕清次郎20　相馬　守胤20
石沢　昭義26　伊藤　周26
池田　高明32　吉田　達夫32
稲垣　浩33　鎌田　康正33
清水　信夫33　高田　清二33
渡部　裕彦33　渡辺　紀男33
高橋平七郎34　播磨屋敏生35
堀川　哲男35　加賀谷弘道36
長谷川　晋37　筑和　正格40
松野　正41　工藤　久良43
小野　義孝46　小野　信48

（石沢　記）

恩師の元気に驚く

25年卒業　丸山会長が近況報告

昭和19年秋田中学入学、同25年新制高校を卒業した、現存者272人の同期会は、平成10年9月19日(土)、アキタニューグランドホテルで開催した。

連続開催以来22回目にあたる本年は、同期会員77人、賛助会員2人、恩師3人、来賓3人、計85人の参加があった。

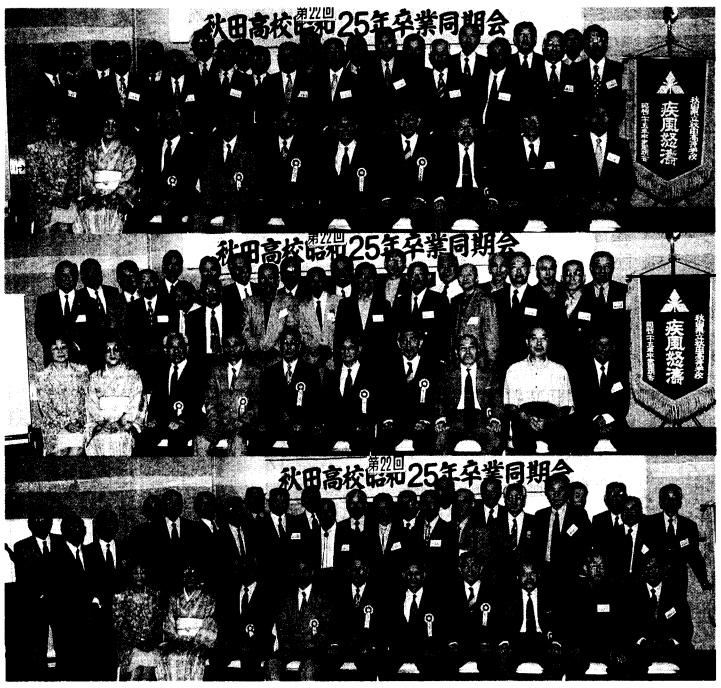
校歌斉唱、同期会歌合唱の後、この一年間に同期4人が逝ったと報告があり、物故者合計65人の冥福を祈って黙禱、続いて大友康二代表幹事の挨拶は「彼岸の同期会は毎年会員も増えて盛大にやっているであろう。残された我々も負けず元気にやろう」。

恩師を代表して寺田光和先生の「満86歳からみれば諸君はまだまだはな垂れ小僧、66歳で運転免許をとった私はまだ現役、山登りも続けている」には恐れ入った。

来賓代表の丸山健同窓会長からは、母校の沿革に触れて、学生帽や学制の推移変遷調査の宿題やら、水戸一高の知道会、全国の同窓会支部の模様などを拝聴した。

67歳の我々も21世紀には卒業50年と古稀を迎える。いつまでも若くはないのだからと、午後5時開会した同期会は、午後8時、来年の再会を約して閉会した。

25年卒同期会事務局
小林良弘



秋高（サブロク）36会同期会
会長　モスバーガー秋田東店　本山秀昭
代表幹事　料亭 志田屋　志田豊忠
代表幹事　秋田テレビ営業担当部長　大石礼之輔

秋高36会　秋田事務局
〒010-0九三
秋田市大町三丁目五―十一
㈾料亭 志田屋
TEL 018・823・0432
FAX 018・823・0432

秋田高校（サブロク）36会東京同期会
会長　松岡直昭
副会長　長谷山律子
幹事長　佐々木貞夫
事務局長　村山公士
会計幹事　伊藤則昭
名簿　会場清信、赤尾八郎、進藤洋二郎、渡辺翔、三谷芙美子、佐藤正純、中畠信夫、村井正芳、加賀谷稔、富岡俊雄、佐々木毅、赤坂和彦、浅野勝昭、山下正治、石川久夫、泉谷雅清、糸山宗幸、岩堀泰雄、岩屋暁宏、宇佐美理久子、蒲崎紀男、大久保信亜、大島斐子、太田卓造、大野忠夫、大森茂昭、柏木征彦、加藤瑛子、加藤順子、金崎史、木村純子、吉富和彦、後藤明男、近藤博志、佐々木美紀子、松本明子、佐藤久和、島貫邦夫、神部欣也、菅原勉、山本純雄、諏訪明良、高島信之介、高橋紘一、高橋照彦、田口平治、竹村孚、寺門信重、照井清司、徳永一秋、永井睦子、長門康治、中山久義、中山文敏、成田武之、藤井敬子、西村陽二郎、根本修、藤丸昌樹、藤原義章、舟木茂、本間恵三、町田侃、渡辺東

東京36会　事務局
東京都渋谷区千駄ケ谷四―六―十五
㈱フジタ
TEL ○三―三七九六―三一八〇
FAX ○三―三七九六―二三六五
東京36会新年会
三月六日定例

来年度へ向け始動
―各部の成績―

全県総体・インターハイ以降、各部とも二年生中心の活動で中央地区新人・全県新人大会に向け臨んできた。今回も輝かしい成績がおさめられており、来年度の全県総体へ向け、それぞれが始動している。

〔硬式野球〕
全国高等学校野球選手権記念
秋田県大会
三回戦秋田6―7横手工業
秋季中央地区大会
準優勝
決勝　秋田3―10金足農業
秋季全県大会
二回戦秋田3―5秋田工業
〔ソフトテニス〕
中央新人大会
女子ダブルス
吉田・田口組　第三位
全県新人大会
女子団体　第二位
秋田1―3聖霊
（東北選抜大会出場）
〔ラグビー〕
全国高校ラグビー大会
秋田県予選会
第二位
決勝　秋田11（6-5, 5-14）19秋工
中央新人大会
第三位
準決勝秋田10―15男鹿工業
全県新人大会
第三位
準決勝秋田22―29男鹿工業
国民体育大会少年の部
第二位
決勝　全秋田12―33全大阪
（出場メンバー　齋藤靖彦・布谷和日湖・野津匡司・佐藤栄幸・山田政尚）
〔サッカー〕
中央新人大会
リーグ三位
〔卓球〕
インターハイ
ダブルス一回戦
高橋智宏・渡邊望東
シングルス一回戦
渡邊望東
シングルス二回戦
高橋智宏
中央新人大会
団体三位
秋田3―1由利工業
〔弓道〕
中央新人大会
女子団体　予選24射11中
男子団体　予選24射9中
全県新人大会
女子団体　予選24射8中
男子団体　予選24射10中
〔山岳〕
中央新人大会
男子Aパーティ　二位
女子Aパーティ　三位
全県新人大会
読図部門一位　鈴木直子
〔ボート〕
全県新人大会
男子シングルスカル
二位　寺田大和　4分36秒19
男子舵手付きフォア
三位　3分26秒25
（佐々木駿佑・児玉一成・菅原　奨・進藤晴樹・佐々木岳史）
〔陸上競技〕
中央新人大会
総合二位
トラック一位
フィールド三位
走幅跳　一位　藤丸　覚
百MH　一位　丹尾貴志
四百M　一位　工藤　翌
四百MR一位　関谷・木曽・工藤・藤丸
千六百MR一位　佐々木・池田・藤丸・工藤
全県新人大会
走幅跳　二位　藤丸　覚
四百M　二位　工藤　翌
四百MR三位　関谷・木曽・工藤・丹尾・藤丸・佐々木
（東北大会出場）
〔剣道〕
インターハイ予選リーグ
秋田2―3鹿児島商（鹿児島）
秋田2―2鹿沼（栃木）（本数勝ち）
中央新人大会
男子団体　優勝
決勝　秋田4―1秋田商
女子団体　二位リーグ
秋田2―2聖霊（本数勝ち）
全県新人大会
男子団体準優勝
秋田2―2(代)秋田商
個人三位　太田陽介
〔バドミントン〕
中央新人大会
男子ダブルス
佐々木(赳)　橋下組
優勝　2―0経法大附
全県新人大会
女子団体　ベスト8
準々決勝
秋田0―3横手城南
男子ダブルス
佐々木(赳)　橋下組三位
準決勝1―2横手工業
男子シングルス
佐々木(赳)　ベスト8
〔水泳〕
全県総体
男子四百M自由形
百Mバタフライ
一位　坂野　拓
大会新　1分00秒26
二百Mバタフライ
一位　坂野　拓
女子八百M自由形
三位　藤田喜子
（東北大会出場）
〔バスケット〕
三位
秋田85―57秋田中央
〔バレー〕
中央新人大会
三位

来年は花園
―ラグビー近藤監督に聞く―

十月十五日、八橋陸上競技場において、全国高等学校ラグビーフットボール大会秋田県予選会の決勝が行われた。二回戦は秋田南に134―0、準決勝は金足農に62―17と、いずれも圧勝で決勝に駒をすすめてきており、当日は全校生徒の応援体制のもとで秋田工業との試合に臨んだ。試合そのものは惜しい結果に終わったが、大雨の中、全校生徒が「ルビコンの流れ……」と大合唱であった。以下は近藤周平監督の談話である。

昨年東北新人の時と同じチームでの出場であった。この頃は優勝こそしたものの、そのことだけが評価され、個々のユニットは決して満足のいくものではなかったと思う。

それから八ケ月後、今大会までに全体が数段向上したということを感じる。また、39名の部員が、試合に出る出ないにかかわらず、一丸となっていたのが何よりも良かったように思う。

今回、決勝対戦校となった秋田工業とは、トータルな力において差があったものの、精神面においては負けてはいなかった百パーセント勝てないという開き直りの姿勢でのぞんだからこそ、得点的にいい方向に試合をすすめることができたと思う。

ただ、バックスで球をそらし、得点するチームであり、そのために試合当日の大雨が本校にとって唯一の致命傷になったと言える。

三年生は引退したものの、一、二年生は全部員が団結したことを身にしみて感じており、来年こそ、という雰囲気で盛り上がっている。是非とも花園を目指して来年頑張りたい。

本年度会講演

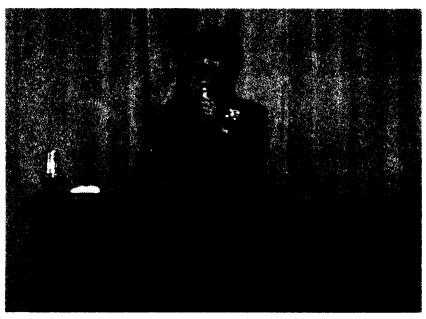
男女が協力しあう世の中に

十月十六日、母校で講演会が行なわれ、今年度は、長谷山律子氏（S36卒、現株式会社レリアン常務取締役人事部長）が「21世紀に向かって男女が共に考える」というテーマで六十分に渡る講演を行なった。

同氏は、自分の経験談を交えながら軽快な口調で「人間とは社会的地位が向上するにつれて驕り高ぶってしまう傾向がある。自分では意識しなくとも、周囲に指摘されることがある。」という内容で、来世紀の社会を担う秋高生に謙虚な姿勢を促した。

次に現代社会において、「なぜ男女平等に関する法律が存在するのか、21世紀に向けて男女が平等になり、ともに協力しあいながら生きていくべきではないか」と話し、在校生の共感を呼んだ。

さらに、「今自分は何のために勉強をしているのか」を考え、目的意識をもたなければいけないということを勉強し、将来自分は何を武器にして生きていくのかをはっきりさせなければいけないと聴衆の在校生に、熱く訴えかけていた。



この講演会は同窓生を講師に迎えて毎年行われているものであるが、生徒からは「社会で活躍する女性の生き生きとした話が聞けて有意義であった。」、「聞きやすく、ためになった。」という感想が多数寄せられた。

会務事項報告

7月29日　宇都宮支部総会
8月21日　名簿委員会入札会議
9月1日　名簿37号印刷入札
19日　S25同期会
10月2日　営林局支部総会
2日　参与・委員長・副委員長会議
3日　札幌支部総会
9日　名簿37号納品
12日　第二回広報委員会
18日　追分三叉路けやき会
21日　資料館整備委員会
28日　男鹿支部総会
31日　第三回財政委員会
11月9日　第三回名簿委員会
11日　近畿支部総会
14日　同期会
17日　S26同期会
21日　第二回企画委員会
水戸一高百二十周年記念
26日　茨城支部総会
12月8日　役員会
16日　理事会
17日　本荘支部
18日　能代山本支部
17日　鷹巣・阿仁支部総会
第二回当番年次打合会
21日　同窓会だより57号発行

哀悼
（敬称略）

謹んで哀悼の意を表します。

1月　京野　春雄　S17
夏井　忠一　S8
2月　伊藤　泰三　S4
里崎　博　S19
3月　川辺　久明　S33
長谷部　暁　S44
4月　石崎（菅原）次夫　S20
5月　沖野　準　S13
6月　佐藤　潔　S4
佐藤　育秀　S5
柏谷　弦　S30
疋田喜久博　S33
7月　高宮三四五郎　S9
安田　廣　S17
佐藤　光　S18
清水　宏昭　S27
8月　北潟（四戸）勝　S9
9月　中山　久　S2
佐々木　實　S14
伊藤　光男　S19
小野（川村）詞郎　S22
10月　牧　一彦　S52
小玉　智宏　S60
工藤千代松　S13
工藤　幸朗　S13
加藤　三雄　S18
亀谷　銀六　S20
柳澤　格　S25
11月　岩間信一郎　S12
佐藤友三郎　S12
中村　司　S33
石郷岡春善　S23
南浦　明雄　S23

事務局だより

名簿37号（10年版）が完成し会員の希望者に配布して二カ月過ぎました。

最近同窓生の自宅に不審な電話が頻繁にあるとの問い合わせや苦情があります。その多くは首都圏の大学などに在籍している若年次の秋高卒業生の実家に同窓会関係者と偽り個人情報（住所電話番号等）を入手するもので手口もしつこく悪質でその対応に苦慮しているところです。

新興宗教団体や各種クレジット契約の勧誘・アパート等の斡旋の名簿作りが目的のようでよく注意なされるよう願います。

名簿37号（10年版）に残部があります。購入希望の方は、卒業年次・氏名・住所・電話番号を明記して事務局へ申し込み下さい。

一冊　四千五百円（送料込）

電話・FAXでも可

年会費納入状況が昨年より下回ってます。未納の方は是非納付されますようご協力願います。

編集局

同窓会だより57号をお届けいたします。御感想をお聞かせ下さい。「慶祝」「哀悼」など、漏れてしまった方もいらっしゃることと存じます。是非、御一報くださるようお願い申し上げます。

各地での同窓行事も、これまた多数あろうかと存じます。その大小に関わらず、様子を本紙「つどい」にお寄せいただければ幸いです。

今年も母校は、いよいよ受験シーズンに突入します。長い冬になりますが、明るい春を迎えることができるよう、生徒教員ともに鋭意努力しているところです。同窓の皆様もご声援のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、よいお年をお迎え下さい。同窓の皆様の御多幸を心よりお祈り申し上げます。